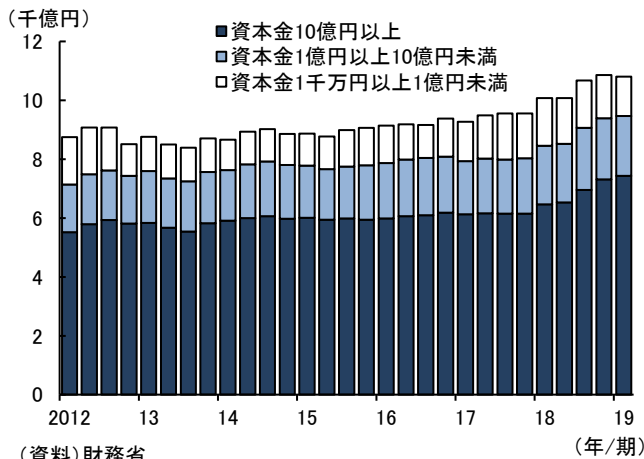


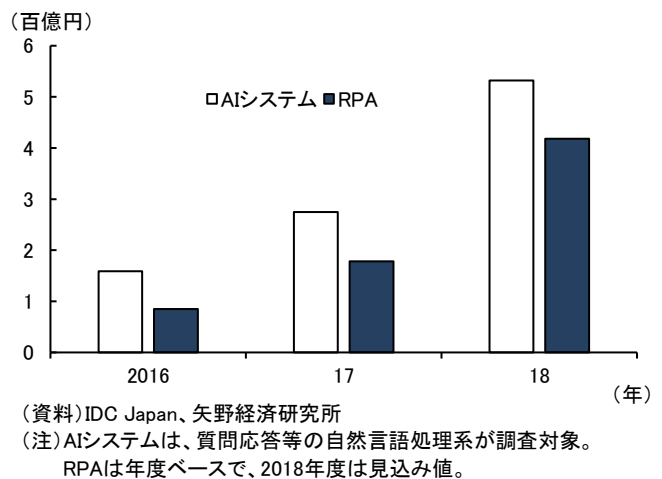
## 拡大が期待されるソフトウェア投資 ～AIなどの先端デジタル技術への投資が顕在化～

- (1) 2018年入り後から、大企業のソフトウェア投資が拡大（図表1）。
- (2) 人材・資金・データなどの経営資源が豊富な大企業が、実用化が進むAI（人工知能）、RPA（定型的なデスクワークの自動化）などの先端デジタル技術への投資を本格化したことが背景。実際、これらの市場は足元で急拡大（図表2）。
- (3) 先行きも、ソフトウェア投資は中長期的に増加を続ける見通し。MM総研の調査によれば、RPAを導入した企業の満足度は概して高く、約8割の企業がRPAの適用業務を更に拡大していく方針。わが国企業はAIの導入で他の先進国に遅れをとるなか（図表3）、先端デジタル技術への投資を一段と加速する見込み。実際、企業の2019年度のソフトウェア投資計画は、例年に増して強い計画（図表4）。
- (4) 旺盛なソフトウェア投資需要に応じていくためには、不足するIT人材の育成・確保など、供給力を強化していくことが課題に。

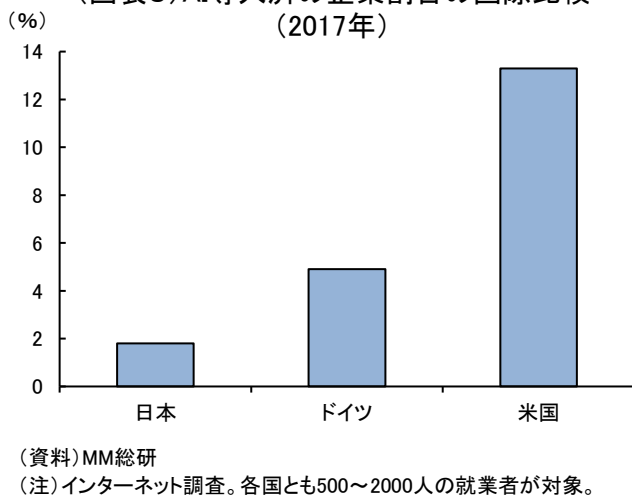
（図表1）法人企業のソフトウェア投資額



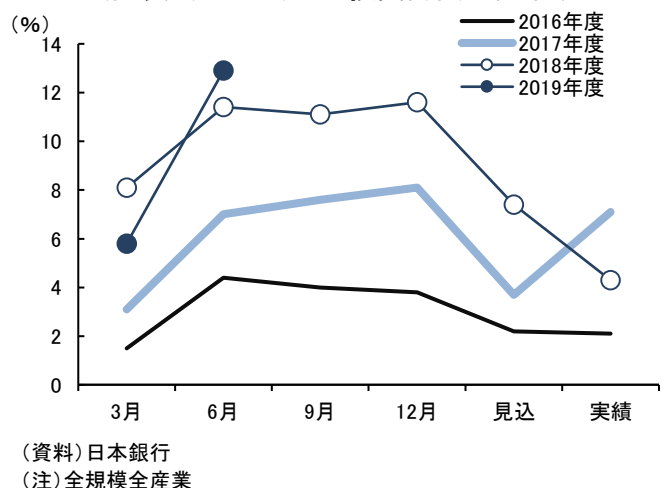
（図表2）国内のAIシステムとRPA市場



（図表3）AI導入済の企業割合の国際比較  
(2017年)



（図表4）ソフトウェア投資計画の足取り



【ご照会先】 調査部 副主任研究員 成瀬 道紀 (naruse.michinori@jri.co.jp , 03-6833-8388)